

# 権限・財源奪われ 暮らし悪化

## 中央区で

## 自治体学校

「おおさか・中央区第10回みんなの自治体学校」(同開催実行委員会主催)が27日、「特別区(大阪都構想)と総合区―翻弄される大阪市」をテーマに開かれました。

講師の森裕之立命館大学教授は、特別区になれば▽自治体としての大阪府は消滅する▽今の大阪府は四つか六つの区に再編され個別の自治体になる▽大阪府は大阪府と対等だが、特別区になれば大阪府に権限を握られた従属自治体になる―な

どと説明しました。そうなれば年間で総額8650億円の大阪市の一般財源のうち2050億円、大阪府税6600億円のうち4850億円などが大阪府のものになり、特定財源も含めた財源が大きく奪われると告発しました。

森氏は「権限と財源が府に奪われると、福祉や教育などの住民サービスが最も影響を受ける。市民の暮らしは確実に悪化する」と指摘。特別区同士の対立が生まれ、府の特別区に対する支配がますます強まると語りました。